

W20203

七 一六

受信 〇七二〇三

了 一一〇五

自電 〇〇八八二二八九
電 八八三一九七

作概・待

緊急

大 漢 通 信 隊

● 大海軍一部・海軍總隊口
● 北東方面部隊戰報通信所

● 海上護衛總口・横濱、佐領、吳鎮、舞鎮各口・阪響口

機密第一五二二三二五番電 五分ノ三三三

（五分ノ一未着）

三〇九五〇・リ一〇三〇迄戦艦六巡洋艦五驅逐艦八室蘭ニ對シ砲撃ス

三一―一四〇ヨリ短時間潜水艦一隻下北北部海岸砲撃

同現在迄ニ判明セル戦果被害左ノ通

(1) 戦果 撃沈艦各一〇機以上

同被害

通 九一八七、九二二二
九二一四、九二一六

天四、ケ十三（八五一〇）大通

奥山、深見、新倉、吉川、竹

内

昭和廿年七月七日

1089

天所見

(一)航空兵力水偵四、一、小湊退避中、尖上ノ外各基地トモ真面目ナル攻
撃ヲ受ケズ專ラ艦船掃二四外艦艇五沈没

(二)對空施設 尻矢 機銃 轟山 小泊 鯨角各所射撃猛烈應戰尻矢

機銃 轟山 機銃使用不可能

(三)地上施設 大湊函館ノ順、厚岸機室千歲港内漁船以上極メテ輕微室

關日銀日銀損替輕微(敵ハ主トシテ日銀從業員社宅ヲ砲撃)

(四)敵ハ昨日ノ釜石砲撃ニ引續本日ハ室蘭ヲ砲撃シアリテ機動部隊ノ動

靜ニモ艦々更ニ明日モ要地砲撃及空襲ノ算アリ

日本日ノ敵ハ搭乗員救助用ニ巡洋艦水上偵察機ヲ繰出シ條々陸岸ニ接

近收容セル等漸次傍若ナル態度ヲ加ヘ來レリ 特ニ津輕海峽東口ハ

其ノ積極化ニシテ現在ノ防備ヲ以テシテ海峽突破並ニ妨害ニ容易

ニシテ當方面ハ持久態勢地域ト雖モ更ニ防備強化ノ要アルヲ痛切ニ

認メアリ

(一)電信課註 本電五分ノ一未着ニ

七
一六受信

〇三三二
〇四一五

〇五三〇電
〇七六八七

作機
航機
船機

昭五、七月廿六日

作

着

東通

大

大

通

機在第五三五九番電

發 大湊警備府参謀長

完 軍務局長 艦本總務部長 航本總務部長

今後當方面ニ對スル敵機ノ空襲次第ニ激化艦船航機
并ノ損傷ニ隨シテ増加ノ傾向ニアルヲ豫想先此以テ
リ上ノ工作能ク増強ニ關スル意見呈シ急宜實現方配
急ニ付度



至急

七 一七 電信一四五〇 歸丁一五五〇 電〇八五二八 航作 侍 本機〇

天航空部隊戦闘概報着信機所

九三一空庫長航空基地

機密第一六〇七一三番電

第九三一部隊戦闘概報第四五號 (七月十六日〇六〇〇)

沖繩周邊敵艦船攻撃ノ爲天山四機十五日一八五五ヨリ一九〇五ノ間ニ逐次串良發進一機發動機故障ノ爲二機天候不良ノ爲引返ス二二〇七迄ニ着一機(分隊長指揮官機野大尉機)ハ二〇五五以後連絡網ヲ消息ナク戰果不明列島線ヲ通ズル北西南東線以南曇雲量一〇雲海面迄垂レ所々雨附近雲頂約一五〇〇

一九九二〇 日一四分十三(九八三〇機)佐二放 本田(森田)

1091

昭和二十七年七月十八日



七 一六
受信一三五五
開始一七五八
譯了二八二二
電〇八〇四三

航作
本機〇

昭和廿年七月廿七日

● 總無線監所用共通符號

● 一機動基地航空部隊作戰命令着信體所

機密第一六一〇五四番電

一 K F G B 電令作第十八號

龍間部隊指揮官ハ九七式飛行艇ヲ以テ奄美大島ニ待機中ノ海陸軍搭乗員
二〇名及喜界島基地ヨリ轉進中ノ基地員約五〇名ヲ收容スベシ
實施要領指揮官所定。

通九三五七
口一Bケ十三(七八七五K)
一K F G B 放清水(土谷)

昭和廿七年七月廿日

七 一六 受信一八三三八
一 九 譯了〇五四五 電〇九五〇九 作概〇

174

着

父島根戰團概報着信盤所

發

母島警備隊

機密第一六一一三〇番電

1093

一一〇〇大型機一機乃至二機ノ斷續的北上機數合計二六機ニシテ概々
母島ノ〇度乃至三五〇度方向ニ進行セルモ敵機ノ北上先狀況不明ナル
モ城ハ列島線附近洋上ノ豫定補給海面ニ對シテハ各方面（東北方面）
ノ軍需品ヲ空輸補給セルニ非ズト思ハル

（東通註）本電再送要求中ナルモ返ナク一應配布本電誤字極メテ

多シ

通九三八八 天二日カ一三（三九八五）七FGB放

（久保吉）

七一六

受信二三〇四
開始二四三二

了〇一三〇

〇〇八六一〇九

作
侍

共符

作

東通・横領口

機密第一六一五五〇番電

三分ノ二

1094

發 三陸部隊指揮官 戰國概報第八號 (其二)

(十五日) 〇五二〇ヨリ 〇五三〇ノ間石ノ巻及仙臺ヨリ侵入セルヨ六日

FRY計一八機ハ松空ヲ攻撃セル後 〇五四〇洋上ニ退避セリ

〇五二〇延一六機 〇八一七及 〇九〇五ノ二同ニ亘リ山田泊地ニ一部

釜石ニ來襲セルヲ在泊艦艇ノ反撃ヲ受ケ一〇三〇洋上退去セリ

戰果掃三三艘墜一艦破一六號掃海特務艇擊破一 被奪天城 傷一 新東

北丸輕傷四 第六號掃海特務艇重傷一口傷一 四七編隊電波探信機三式

探信機九〇式大週電話送話器 十三純機銃。(電信課註 本電三分ノ三未着)

通 九五七八
九六四六

天二ヨリ六十三(七三三) 横運放

長谷川 (平賀)

七
一七

受信
始一〇三五〇五

譯了 一五五一

電 〇〇八八六一二
作 待 概

昭和廿年七月拾八日



● 横 銀 戶 ・ 横 防 戦 指 揮 官
● 東 京 通 信 隊

符

機密第一六一五五番電

四分ノ一四

一、通 報 三 陸 部 海 軍 部 指 揮 官
二、石 來 襲 概 報 (十 五 日 一 二 〇 〇)
三、海 上 護 衛 隊 隊 長

十四日敵艦上機延約一〇〇機、爆撃銃撃機砲夷攻撃及び二〇二ノ約
二時間ニ亙ル砲撃、十五日艦上機約二〇機ノ來襲ヲ受ケ被害大
製 鋼 所 開 係 工 場 被 害 全 面 的 ニ テ 特 二 被 害 甚 大 ナリ
(以下四分ノ一)

判明セル死者約一二〇重傷者約二〇〇倒壊家屋約一五〇〇戸ノ救
護ハ適切ニ實施サレアリ

通 九 八 五 二 七 一 日 一 日 一 三 (七 三 三) 特 通 (久 保 田) 一 一

三 飛行機ニ依ル被害ナシ

三 永観丸十三日(〇五五二)船體切斷航部浮上中十四日集彈未受
タルモ命中確無機銃掃射ニ依リ通船破損船體命中彈六二四發死
者一名。

〔電信譯註 本電四分、二三未着〕

七一七

受信一〇二七
開始一三一一

。終了一四四三
電〇九六七

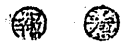
待

稿

昭和廿年七月廿日

發 共

符



横須賀・横防鐵
東京通信隊

機密第一六一五五番電

四分ノ三

(發 三陸部隊指揮官)

(支 廠及動力關係被害大早蕪ノ復舊困難)

(W 炭業關係石灰爐關係被害大)

(二) 市内餘子地域益嶺大渡川以北海岸ニ至ル間約三分ノ一燒失(市役所勤務員等乘便局市立病院本日午後燒失武官府車狀ナシ) 燒失物亦トム燒失貨物列車運送中止中)

(電信要註 本電四分ノ三三四既配布)

一九九〇二 日一廿十三 (七三〇) (注々本) (電發)

1096



七	一
長	場
A	中
B	島
C	防
D	備
E	隊
F	間
	航
	空
	隊

機動基地航空部隊指揮官・大島防備隊
 機動基地航空部隊作戦命令着信體所・佐領下・九五一空

電 〇〇八三六二
 航作標 本〇

機密第一六一八三〇番電 二分ノ二

一 K P G B 電令作第一八號ニ依リ奄美人員輸送ハ左ニ依リ實施（天草）
 航空隊九七式飛行艇一ノ爲出動回次期日着時刻機數收容員數ノ順
 第一次二十一日二三三〇・〇〇三〇 二機四八名 第二次二十二日〇

一〇〇 一機二二名
 二、大島基地諸間及古仁屋（大島海峽）
 三、通信電波（後報）呼出符號ヨビ丙暗號書多現用當日一六〇〇ヨリ諸
 間及飛行艇ト直接連絡シ敵情天候速報サレ度

通九五九七 呂一Bケ十三
 九七八二 九八三〇C KC 伍二放

仲 渡部
 真 眞（上野和）

昭和廿年七月拾七日

1097

四味方標顯航空燈點滅並ニ赤オルスニテ飛行機「夕」地上「ウ」連?

送

五着水後直ニ搭乗可能ナル如ク準備サレ度一人平均八〇斤以内物件ハ

收容セズ

(二)



七 一七

受信 〇〇六四三
詳始 〇六四五

詳了 〇七四〇 電 〇八四五九

作 〇

昭和廿年七月廿七日

急

東 通 横 通

機密第一六二〇三三番電

發 父島方面根據地隊司令官

宛 第二魚雷艇隊司令

通報母島警備隊司令 横須賀參謀長 G D 參謀長 三 A P 參謀長

大海參一部長

信電令作第三十三號第二魚雷艇隊司令ハ魚雷艇四隻ヲ以テ七月十六日北

碓黃島所在海陸軍軍人軍屬ヲ父島(母島)ニ收容スベシ(發令日時七月

十五日一六〇〇)

通九七八一 呂一Bケ一三(三五五七五K) 横須賀 本田(雨谷)

七・一七
緊急

受信
開始 一一二〇五

譯了 一三〇八

電自 〇八四七二
至 〇八四七四

作稿
政本

昭和廿七年七月拾八日



北東航空隊

大湊通信隊

大海軍一部・三澤航空基地・
海軍總隊

機密第一七〇七〇〇番電 三分ノ二ニ

宛 大湊軍需部長 大湊警備隊 大工部長
H Q B 信電令作第一一號

大湊警備隊 (聯特) 司令官 H Q B 電令作第一一三號ニ基キ左ニ依リ

防空隊ヲ編成三澤基地ノ防空ニ任ゼシムベシ

一、遠ニ明十八日中概成

兵器

(1) 二一五 経機銃 (聯) 二四門 (信令第六一號ニ依リ裝備済ノモノ)

用)

天二B 夕十三 (八五一〇EG) 六一一 一 仲 (海軍)

(1)

八九九
八〇一
七〇九

(四) 二十五耗機銃(一) 八門(信令第六三號ニ依ル三澤基地ニ充當ノ豫定ノモノ及軍需部在庫品全部)

三 兵力聯特警備隊要員抽出

四 指揮關係其ノ他防空隊長ハ大尉以上トス現三澤基地配備中ノ(養成
一) 兵力(二十五耗二〇 一三耗七)ヲ併合指揮シ横空審査部長ノ區
ヲ受クルモノトス

五 大湊軍需部長ハ右兵器ヲ大湊警備隊司令官ニ供給スベシ

六 大工部長及大湊運輸部長ハ右裝備並ニ輸送ニ關シ通知アリ

大湊警備隊司令官ニ協力スベシ。

作

至急

七
廿七

受信
開始二〇三
四一九

一八

譯了〇九三〇 電〇八九六六 整作

● 二二一 海防艦

● 三陸部隊

● 六二作戦關係者信置所 三陸部隊山田派遣隊

機密第一七〇七三五番電

發 第二二一號海防艦長

一、神洋丸（函館行）永口夕丸（室蘭行）ノ被害箇所應急修理極力交渉

中ナルモ今ノ所當分不明ノ狀況ニアリ

二、何レモ摺合セテセザシハ積荷不能

三、本艦内火艇引揚ニ成功セリ 一番重油タンク（水線下）修理ヲ要ス

東通註 誤字多ク再送要求ノタメ遅延

通九九五八 天二日ケ一三（八五二〇）大一放 内山（松井）

昭和十七年七月十九日

1100

七一七

緊急



大塚口

大塚口 一部・海軍艦隊口・海運總監部参謀長
電務局・s六一、s六二各作戦部隊

機密第一七〇八五七番電

海軍 参謀長

s六一s六二作戦開始以來同作戦部隊ノ機口ニ依リ莫ク敵機ノ侵入
ヲ阻止シソノ際日本海ニ於ケル船舶ノ被害ヲ皆無ナラシメ日露作戦
船舶運送中ノ悪化状態ニ寄與セシ意程メテ大ナルモノアリト認マラル
同作戦終結後下種モ現狀船舶現況ニ鑑ミ依然舊態維持ニ依ル時
況ヲ慮ニスルト共ニ是亦今日無事終了セル宗谷海峽機雷敷設ニ引續
キ海軍艦隊機雷敷設ヲ促進願フ日本海侵入阻止ニ努メラレ度。

機密第一七〇八五七番電

(機密)

昭和廿年七月拾八日

機密第一七〇八五七番電

海上機雷敷設

1101

ノ



七 一三 受信一三一七 譯丁一四五五 電〇八五二三
譯始一四四〇 〇八五一四
〇・艦作 艦C 戦力

横鎮戸・吳鎮戸

阪警戸・第一、第二、第四、第六、第七特攻戦隊

機密第一七〇九二番電 二分ノ一、二

〇 B 電令作第一一五號

横須賀鎮守府司令長官ハ〇 B 電令作第一一一號ニ依ル輸送ノ外

ニ依リ海龍及回天ノ輸送ヲ實施スベシ

一 横鎮指揮下ノ輸送艦二隻ヲ以テ横須賀ヨリ海龍八基ヲ内海方面ニ

時途吳方面ヨリ回天一六基ヲ關東方面ニ

二 吳鎮指揮下ノ輸送艦二隻ヲ以テ吳方面ヨリ回天一六基ヲ紀伊水道

伊勢灣及關東方面ニ時途海龍八基ヲ横須賀ヨリ内海方面ニ

三 搭載區分及輸送先細目ニ關シテハ海龍ハ横鎮長官回天ハ吳鎮長官

所定トス

通九九四〇

九九四一

〇一B 々十三

（B）

（C）

昭和廿年七月拾八日

1102

人

作

七一八

受信一四三〇七

譯了二九二〇

電〇九一三三四

經作 選藏〇

東京

通

小樽 在勤 武官

機密第一七〇九一三番電 二分ノ二

發 北海 監督長

宛 海軍省 經理局長

十五日十六日敵艦載機來襲ニ依リ帝國纖維ノ被害状況左ノ通
全燒九更ニ當工場並ニ倉庫三全燒大樹工場全燒標茶倉庫三斜里工場半
燒本別工場全燒其ノ他原料火藥半數後ヨリ炎上五箇所被害ハ全体ノ二
二% (一ヶ月三〇萬斤ノ減産) ニシテ復舊ニ約四箇月ヲ要ス。

通一〇五三四、一〇四一九 天二B十三 (五八一〇KO) 大漢放 千葉、西岡 (土谷)

昭和廿年七月拾九日

1103

七一七

受信一五二〇
譯始一六三八

譯了一八四五

自〇〇八八九五

△航施作統
本本〇



○ 横、吳、佐各鎮口、阪、大、以各管口

○ 東通・特攻戦隊P・三、五、一〇各航空艦隊口

機密第一七〇九二二番電 三分ノ二、三

發 G B 參謀長

通 各突撃隊 大本營海軍參謀部第一部 航空本部 特兵部 施設

本部 軍務局

隱密監視所強化ノ爲大海幕一機密第五二四號ヲ以テ選進監視隊ヲ改編
甲隱密監視所（所員二二名）乙隱密監視所（所員八名）ヲ整備スルコ
トニ決定セララル乙監視所ハ既設監視所ヲ增強スルモノトシ甲隱密監視
所ハ左ノ區分ニ依リ急遽設置ノコトニ御取計ハレ度
尙設置場所目ニ關シテハ各航空部隊ト協議ノコトトセラレ度

通 九九八七

九九八八
九九八八
〇〇四

呂一〇ケ一三（B）（G）（F）口 深見（小澤あ）（丁）

1104

一、配備地區（配備先、數）

日向灘（AGZG・UG）三五 日向灘南部有明灣方面（AGZ

G・UG）三三二 薩摩半島南岸及西岸（AGZG・UG）三三二

九州北西岸（三四ZG又ZG）朝鮮南岸濟州島（鎮海防備隊二

宿毛）及入野海岸（AGZG・UG）二二二 四國南岸（AGZ

G・UG）二三一 紀伊水道（AGZG・UG）二二二 遠州灘（A

GZG・UG）二三一 志摩半島（AGZG・UG）一九一 相模

灣（AGZG・UG）一六一 關東京岸（ZG・一一二） 關東

東岸（ZG・一四）計一九

二、甲監視所、敵上陸豫想地點附近ニシテ然モ強靱ナル見張り施設ノ隱

密ニ關シ特ニ留意ヤシメラレ度

(二)

至急

七一七

受信 一八五九
始信 二〇三〇

譯了 二二三五

電〇九三九一

侍作

概

昭和七年七月拾九日



第五航空艦隊
聯合艦隊口。八〇一空。觀音寺空

十二 航空 戰

機密第一七一〇二五番電 二分ノ二

三 被害

(1) 飛行場主滑走路被彈五〇午前中ニ復舊ノ見込

(2) 長距離電話不通夕刻迄ニ復舊ノ見込

(3) 炎上一式陸攻一(第八〇一航空隊) 彗星一(第十二航空隊)

(4) 觀音寺空戰死二重傷一輕傷一 第八〇一空重傷一(何レモ下士官兵)

四 發射彈數十二種高角砲八九

(電信課註 本電二分ノ一未着)

通 〇一三三 E 一〇分十三(七八七五K) 一三FGB放 仲(小)

1105

人

七 一七 受信二八〇二 譯了二二二二五 電自〇〇八七八七五 作極〇
譯始二一五五 譯政・旅本



大 通 ？

東 通・豊 原 在 勤 武 官

機密第一七一〇四五番電 三分ノ一、三三

宛 大 警 庁

通報 艦本總務部長 大湊工作部長 軍務局長 軍令部一部長

海記島防備等ニ關スル所見左ノ通

一 軍用毛氈^皮確保上海記島ノ保持ヲ必要トセバ敵潛ノ近接砲撃ヲ阻止スル爲

要スルニ付洞窟式砲(四門) (偽砲又ハ火砲) 陸地ノ構築ノ要アリ

ト敵ム尙ヤン時^P燒失ノ現狀ニ於テハ現在作成モ開始ニ對スル準備トシ

テモ簡易居住施設ノ急設ヲ要ス

進 一〇〇九五 天二日夕十三 (七七一〇〇〇) 大通 岩田(山崎)

一〇〇九六 尾富永

二、電探見張所トシテハ補給及施設關係上北知床[?]（原戸附近）變更ノ
 豫定尙當地方ハ露多^{露多}ナルヲ以テ電探兵器モ耐濕施設ヲ充分ナラ
 シメザレバ耐久性極メテ少ク又遼遠ノ地ニシテ部外電源ノ使用不可
 能ナルニ付發電機ハ二臺トセラレ度
 新兵器供給ノ見込承知致度。

七

一七 受信二一四六 了〇一二〇 電〇八八八二
一八 開始〇〇二五 〇八八八三 侍 作 稿

昭和廿年七月廿八日



北東方面部隊

北東方面部隊指揮官

海軍總隊口・海北護衛總口

機密第一七一〇五二番電 二分ノ二

通報 東北軍北部隊

今次敵機動部隊來襲ニ際シ各部各艦艇連日哨戒成ハ遂ニ擊墜四〇機
被二五以上ノ戦果ヲアケタルハ可ナリ

一特ニ第三二一號海防艦ガ奮戦克ク單艦ニテ擊墜一二機撃破リノ戦果
ヲアケタルハ其ノ功大ナリ

天津防部下

方面艦艇ガ激甚ナル空襲下ヨク其ノ守所ニ敢闘シ津輕海
峽扼止ノ任務ヲ全ウシタルハ其ノ勞多トシ各部ハ今後益激化ヲ豫
想セララルル敵襲ニ備ヘ教育訓練ヲ精練度ノ向上ニ當ルベシ

一〇七 天二日ケ一三(八五一〇)EG 六田(加藤)



七 一八
 受信 一〇五三〇
 譯始 一〇〇五
 譯了 一一二〇
 電自 〇〇九〇〇
 至 九〇〇
 一八五
 侍作
 備

厚岸防備隊或國統報着信艦所

機密第一七二二六番電 四分ノ一、二、三、四

厚岸防備部隊戰國統報第三號 (附屬艇ノ分)

第一第二玉園丸ハ釧路岸壁兼留中十四日〇四五〇ヨリ主トシテ日六

日四〇約一五機一四二〇ヨリ延約七〇機十五日〇六五〇ヨリ三

機來襲之下交戦艦退セリ

一戰果 (一玉) 艦壁一機大破一機中破二機

二被害艦 (一玉園丸船體ニ彈痕二八五 (内漏水箇所三) 船橋其ノ他ニ

小破損アルニ戰國航海ニ支障ナシ戰死一員傷一〇 (内准士官一)

(四) 第二玉園丸十四日〇五五七後部上甲板ニ直撃彈一其ノ他ニ至近

通

〇〇〇〇
 〇三三三
 〇九九八
 〇二八七

一三三三 (八五一〇) 大通放 甲田 (小)

昭和廿年七月拾九日

三、受

(一) 兵器被射機一七失一大破一小破八經又眼鏡外統海兵器及爆雷

一〇亡失水測兵器破損

(二) 船體後部上甲板煮炊所士官室中甲板後マスト船橋電信室舵柄

水雷及機關科倉庫等河レモ大破

(三) 機關推進軸彎曲蒸氣管漏洩及吸入弁故障等戰闘航海ニ支障ヲ

リ戦死二二名(内准士官一名)重傷三名輕傷七名(内准士官

一名)

三、消耗彈藥十三種機銃一五〇〇發二五四九六發

四、圖部丸厚防機密第一四一〇三六番電所報ノ通本十七日ニ至ルモ消

息不明

三、根室特設見張所(戊)ノ連絡不能ノ爲狀況不明。

(二)

昭和廿年七月拾八日

七一七 受信一八〇七 丁一九四〇 電〇八六四九 整 施
開始一八五〇

緊 急 大和 航空 隊

第三航空總隊 第一空襲部隊

海軍 總隊 隊 口

機密第一七一四一七番電

發 一三五參謀

當基地降雨ノ爲飛行機分數秘匿施設造成工事遲延セリ當基地ハ飛行機
隊ノ進出ハ約五日間見合セラレ度

通一〇〇八二 呂一Bケ十三(三九八五A)七BGB 坂島田(半 譯)

七
一八
受信二〇一〇〇
譯始〇七四〇〇

譯了〇八一〇、電〇八九四七

作備〇
本・侍

昭和廿年六月八日

●上海特別陸戰隊

●支那方面艦隊

●東通・青島方面根下・旅順方面根下・中支那艦隊指揮官

海軍第一七一四三九番艦

設 上海地區海軍防衛指揮官

八月二日 〇一二五約四〇機一至〇〇〇約一時間二回三分ノ上海

地區ニ侵入主トシテ攻其地秘密滑走路大塚鎮江岸附近ヲ襲上リテ

爆投彈約五〇〇

二機零落一機被射工員戰死二員傷入倉庫倒壊四

三戰果蒙破二

四空開大型機編隊來襲ハ昨年十一月以降始メテ多ク今後ノ來襲狀況

ヲ示唆スルモノト認ム

通一〇一七六 呂二〇五十三八七四六五〇一上海 村尾一

1110

七 一八 受借〇一四九 歸了〇二五九 電〇九九三八七六 補般◎

局長							
一課長							
A 課長	L						
B 課長	K						
C 課長							
D 課長							

機密第一七一五〇一番電 三分ノ二

對島警備隊司令

宛 七〇〇

受報者 護衛隊司令 佐領長官

貴機密第一六〇九二九番電返

燃料 (七尾山)

重油一五八〇アルロトル一三噸 外部機油一〇噸 輕油三、六噸

燃油二、五噸 一六ト工業用一五〇 機用 (機) 料五〇〇

二號機 一六二 一〇三〇五 天二〇分十三 (九八三〇) 在二處 兵野 (機田)



1111

三 糧食

米一〇〇〇石 麥三〇石 豆五石 砂糖 乾麩 包一〇〇〇石 調味品及鹽 四

箱

三 酒 保 賜 品 六 月 分 (一三三〇人) 鹽ノ補給

四 軍ニ燃料六ヶ月分 (一三三〇人) ナ集積ノ與アリ。

【電信課誌 本館三分ノ三未着】

至 七
 急 一七
 受信 〇二〇四〇〇
 譯始 〇一四〇〇
 譯了 〇八三〇
 電 〇八九九四
 航作概 〇
 本特



● 東 通・聯合艦隊P・高通
 ● 宮古島警備隊・佐世保通信隊

機密 第一七 一五三〇 番電

十六日戦局概報

〇九三五ヨリ一二五〇迄PBY機 北岸並ニ周邊哨戒偵察一二二五部
 落ヲ爆撃對空砲火ノ減少ニ依リ敵飛行機ハ傍若無人ニ超低空ニテ偵察ノ
 後東方ニ去ル

進一〇二〇三 天ニBケ十三

九	長	一	〇	島	高
山	二	〇	島	雄	
一	〇	島	雄		
〇	島	雄			
島	雄				
雄					

昭和廿年七月拾九日

1112

人

七
一一八七
受信〇二二二〇八
了〇三〇〇 電〇八七六九
作概〇
航本〇

至急

五航艦P

佐 鎮 P



海軍總隊 佐鎮大島方面部隊P・九五一空
託閣空

機密第一七一五三八番電

發 參 謀 長

一 K P G B 電令作第一八號

局長									
A									
B									
C									
D									
E									
F									
G									
H									
I									
J									
K									
L									
M									
N									
O									
P									
工勇									
永井									

二 依り奄美人員收容飛行艇ノ往航ヲ利用大島ニ向ケ補給物件托送致度
尙右差支ヘナキ場合物件積込ハ佐世保ニテ實施致度佐世保經由進出ノ
コトニ御取計ヲ得度。

通一二八四 呂一〇ケ十三（九八三〇BC）佐二旗 金指（大見）

昭和廿年七月十八日

1113

七 一七 覆信二一。 証三九。 正見〇八六一作概。

緊急

作

着

東道？

五三落航空艦隊 吳鎮口 蘇鎮口
三三 艦路 大和 德島 各 跡 艦隊

機 完 第一七二六三七 備 履

潮輝陸軍見張報告二條八一四三潮輝三五後
一。 科敵東方不明巡洋艦一 進行方向南東。

通一〇七七 天三三三三(中) 政 示

同 示 示 (中) 政 示

昭和廿七年七月拾八日

1114

七
一八七 受信一九二一
至 急 開始〇四一五

丁〇五五〇 電〇八八六九

航作機本
〇 參本



五 航空 隊 P
新川、小松航空基地。三、一〇航空隊口。六航空隊通信隊

機密第一七一七〇六番電

1115

發 日 謀長

通報 航空總軍大海 六航空 第五航空隊

機密第一三一八一五番電關聯

飛行第七第九八戰隊復歸後ニ於ケル戦力發揮（雲霧行 聯事項ヲ主トス）

ニ對スル協力援助ハ兩戰隊ノ使用基地ヲ伊丹及兒玉トセラルル諒解ノ下

施策中ナルニ付可然措置セラレ度。

通一〇一四四 昌一Bケ十三 (B) G F 口 今村 (山崎)

A

七一八

受信開始 〇〇五三〇〇

号イ六一〇

電 〇〇八八九二

作 侍

横

昭和廿年七月十八日



●

横領部隊戦闘概報着信監所

機密第一七一八三一番電 三分ノ六ニ

● 横

領 戸



横領戦闘概報（七月十七日）

一、B一、二、九約一二〇機列島線ニ添ヒ北上十六日二三一五ヨリ〇一五

〇ノ間逐次相模灣ヨリ侵入平塚（一部藤澤）ケ崎社堂及小田原

附近ニ焼夷攻撃ヲ行ヒタル後〇二〇〇頃迄ニ伊豆半島（一部房総）

南端）ヲ經脱去別ニB一、二、九約七〇機〇一〇〇ヨリ〇二一〇ノ間

駿河灣ヨリ侵入沼津附近ニ焼夷攻撃ヲ行ヒタル後〇二五五頃迄ニ

相模灣ヨリ脱去セリ天候曇雲一〇雲高五〇〇

通 二〇三三二四

口一Bケ一三八七三〇〇横通 發生（横田）

三 交戦状況

(イ) 横領第三航空部隊戦闘せず
(ロ) 平塚地区所在地土砲火之ヲ攻撃發射彈數高角砲七六發

三 戦果不明

（電信線誌、本電三分ノ三未着）



七 一八 受 信 始 〇〇二二六 譯 了 〇三〇一 電 〇九三九八 侍 作 概

● 横領部隊戰鬥概報着信處所

● 横 領 尸

機密第一七七八三一番電 三分ノ三

四 被 害

附約二割焼失

第二航空廠平塚補給工場及第四工場全焼 横須賀工廠平塚分工場四割焼失 平塚砲臺兵舎一棟全焼 平塚機銃砲臺兵舎二棟全焼 馬入レ機銃砲臺兵舎一棟全焼 (其ノ他輕微)

〔電信課註 本電三分ノ二既配布〕

通一〇三一八 呂一Bケ十三(B)横須賀 関根(小川)

昭和十七年七月拾九日

1117



緊急

七
一八七

受信
〇〇二四九
〇〇二六

丁〇〇四九

電〇八七三七
〇八七三八

作
〇

昭和廿年七月拾八日

先遣部隊

共

符

一七二〇一三番電二分ノ二

目録
総合情報
一〇四號

敵機動部隊十五日午後以降南下補給實施ノ上本日午前房總方面

ニ攻撃セリ推定位置第一群〇六〇〇ノ夕五五〇ニ群〇七三〇

ノ夕五五〇三ノ旗艦ハ〇九三〇測定位置地點ノウヤニ六ニシ

テ逐次南方ニ移動ノ状深アリ

本日〇九〇〇沖繩局遠征船偵察(目録)ニ依レバB八〇一五D

一〇P一五〇アリ

三沖繩警戒機ハ北北東乃至北

局長	一課長	二課長	三課長	四課長	五課長	六課長	七課長	八課長	九課長	十課長

通
一〇三三七

昌一B夕十三(五二九五七)六四

九(六)

七一八

受信開始 〇〇三〇四五

終了 〇三三〇 電 〇八八二一

航作 機本〇

聯合艦隊 戸

共

符



機密第一七二〇四〇番電

通電先 航空本部 威 榮 スイ 淀 高 密 司 準 靖

要事情報第六七二號

南西方面所屬部隊不時着用飛行場（一一〇〇米×三〇米）ハ十四日一
八四五全幅「シバフ」偽裝完了離着陸可能ナリ。

通一〇三二〇 機作（四七〇五）高翅 佐々木（竹 内）

昭和廿七年七月九日

1119

七一八

受信二〇七〇七六
開始二〇〇七

了二〇五三 電〇九一六六 作 統〇

緊急

共符



一五特根戰團概報着信艦所

總發第一七二〇五二番電

二九醫補隊戰團概報十七日

一、テルナール島十一日襲撃滅戦後ノ殘敵、掃蕩戦果約二〇〇名

二、一五三〇單發二、カウ地區來襲戦果極害ナシ

三、ダルバ出港小型一針路北入港、大型二小型一（孰レモ満載）

四、旋泊一四〇〇、大型九中型六小型五、油槽船八病院船一工作船一

五、一〇五七五八海上トラツク一七大型上陸用舟艇三六舟艇四〇

六、四七口夕イ發進機針路北乃至西大型計二〇ノ他視度不良ノ爲不明。

通一〇五九五 呂一〇五十八（一八三六七五）二六通 吉川（梅木）

昭和二十年七月拾九日

七
一
八

至
急



海
護
總

大海參一部・參本十課・軍務局・艦本二部二課・海運總監部
海軍總隊部・海運總監部・船舶司令部

機密第一七二二

機雷情報第五二號

六月中ニ於ケル機雷設置ノ旨來電セル前機雷ハ前月ニ比シ約二倍ノ

五四〇機ニ差シ特ニ日本海方面ニ對シテハ前月ノ五倍ヲ僅シ機雷ニ

依ル海上交通破壊戰ノ熾烈化ヲ示シアリ然シテ右ニヨリ船舶被害ハ

五月ノ二三五機ニ比シ六月ハ一二二機ニシテ稍減少シ來電機雷ノ倍

増ニ比較スル時機雷見張掃海並ニ航行管制等ノ機雷對等ヲ漸ク効果

ヲ收メタルヲ示シ今後更ニ各部隊ノ努力ニ依リ被害ノ減少ヲ計

ルニシテ九・三一八〇 天二日ケ一三

局長	一二	署	電
A	U	電	電
B	K	電	電
E	I	電	電
J	C	電	電
Q	H	電	電
F		電	電

電〇九〇〇五 災海・參本

昭和二十七年七月拾九日

1121